

自給・商業用海産物にかかる経済価値試算

◆算出方法

沖縄県、奄美市、小笠原の統計データの中からサンゴ礁に依存している魚種を選択。年ごとの変動の影響を少なくするため、過去5年分の漁獲高（H14～H18）を平均し、全対象魚種を合計した。（ただし小笠原の漁獲高については、データがH18年分しか入手できなかったため、平均値は計算していない。）

◆方針

- ・対象魚種には、サンゴ礁に生息する魚種、及びサンゴ礁以外の場所に生息する魚種であっても、生活史の一部にサンゴ礁を利用する魚種を含めた。（例：ウミガメなど）
- ・「他の～」、「その他の～」という分類群でサンゴ礁魚類がかなりの割合で含まれていると考えられるものは、その推定割合を乗じて計算に含めた。

◆試算結果

（単位：千円）

	対象魚種数	金額
沖縄県（H14～18年分平均値）		
漁獲高	35	2,693,280
海面養殖	11	7,898,150
奄美（H14～18年分平均値）		
	12	96,954
小笠原（父島＋母島）（H18）		
	4	49,419
計		10,737,803

◆ポテンシャルの価値の推定

沖縄県の現在の漁獲高は、過剰漁獲の影響で資源が低下しているという指摘もあるので、本来のサンゴ礁が持つポテンシャルの資源価値は上記の計算で算出された価値よりも高いと考えられる。仮に沖縄復帰時の漁獲量が本来のサンゴ礁の持っていた価値であると仮定し、その資源価値が現在の何倍であるかを計算した。

沖縄県漁獲量（サンゴ礁魚類のみ）

①S47～S51の5年平均	16661.6トン
②H14～H18の5年平均	4468.4トン
①/②	3.73倍

この結果を考慮に入れて計算すると、

（単位：千円）

	対象魚種数	金額
沖縄県（H14～18年分平均値）		
漁獲高	35	10,045,934（＝2693280×3.73）
海面養殖	11	7,898,150
奄美（H14～18年分平均値）		
	12	96,954
小笠原（父島＋母島）（H18）		
	4	49,419
計		18,090,457

◆参考資料

沖縄県水産課—沖縄の水産業 <http://www.pref.okinawa.jp/suisan/suisangyou.html>
 数字で見る奄美市（統計データ） <http://www.city.amami.lg.jp/amami01/amami09.asp>
 東京都産業労働局農林水産部ホームページ：<http://www.sangyo-rodo.metro.tokyo.jp/norin/suisan/about/index.html>